



平成20年8月11日

各位

会社名 株式会社 オプト
 代表者名 代表取締役社長 海老根 智仁
 (コード 2389)
 担当者
 役職・氏名 執行役員 CFO 石橋 宜忠
 電話 03 - 6268 - 3800

平成20年12月期通期・中間期業績予想(連結・個別)の修正に関するお知らせ

平成20年12月期の通期・中間期業績予想(連結・個別)を下記のとおり修正したため、お知らせいたします。

記

1. 通期業績予想の修正(平成20年1月1日～平成20年12月31日)

(1) 連結業績予想

(金額の単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A) (平成20年7月24日発表)	54,900	1,500	1,430	1,720
今回修正予想(B)	55,500	1,200	1,130	1,140
増減額(B-A)	600	300	300	580
増減率(%)	1.1	20.0	21.0	33.7
(ご参考) 前期実績(平成19年12月期)	35,285	1,279	1,179	690

(2) 個別業績予想

(金額の単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A) (平成20年7月24日発表)	48,000	1,210	1,210	30
今回修正予想(B)	49,300	900	910	540
増減額(B-A)	1,300	310	300	510
増減率(%)	2.7	25.6	24.8	-
(ご参考) 前期実績(平成19年12月期)	29,524	822	817	544

2. 中間期業績予想の修正（平成20年1月1日～平成20年6月30日）

（1）連結業績予想

（金額の単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想（A） （平成20年7月24日発表）	22,500	560	530	271
今回修正予想（B）	23,561	517	496	369
増減額（B - A）	1,061	43	34	98
増減率（％）	4.7	7.7	6.4	-
（ご参考） 前期実績（平成19年12月期）	17,098	727	685	463

（2）個別業績予想

（金額の単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想（A） （平成20年7月24日発表）	19,000	400	410	306
今回修正予想（B）	20,325	361	383	795
増減額（B - A）	1,325	39	27	489
増減率（％）	7.0	9.8	6.6	-
（ご参考） 前期実績（平成19年12月期）	14,432	485	474	360

3. 業績予想の修正理由

以下の理由により、平成20年12月期の通期・中間の業績予想（連結・個別）を修正するものであります。

連結子会社における事業譲渡による影響

当社は、平成20年7月24日開示「連結子会社における事業譲渡に関する基本合意書締結および同事業譲渡に伴う特別利益・特別損失発生のお知らせ」のとおり同日開催の取締役会において、連結子会社の株式会社ALBAの全事業（ゴルフ関連誌の出版事業およびインターネット事業等）を、同社代表取締役社長の島崎陽が中心となって実施するマネジメント・バイアウト（注）に応じる形で受け皿会社である株式会社アルバおよび株式会社アルバネットに譲渡することを決議し、事業譲渡に関する基本合意書を締結いたしました。

本件による業績への影響は、当初、下半期（平成20年7月1日～平成20年12月31日）の計上を見込んでおりましたが、当社の会計監査人（あずさ監査法人）との協議の結果、単体（個別）に発生する見込みの特別損失582百万円（内訳：債権放棄損529百万円、会社清算損53百万円）を中間期に引当金として計上することといたしました。また、特別損失の計上に伴う税効果の影響が129百万円見込まれ、特別損失と合わせると453百万円の中間純利益減少要因となる見通しであります。この計上による連結の中間期業績への影響はありません。

なお、本件による連結の通期業績への影響を精査した結果、税金費用が平成20年7月24日開示時点で想定した197百万円から457百万円に拡大する見込みであることが判明したため、当期純利益への影響額を1,207百万円の増加（平成20年7月24日の開示内容は、1,467百万円の当期純利益の増加）に修正しております。

注：マネジメント・バイアウトとは、一般的に、対象企業の業務執行を行う取締役の全部又は一部が、企業投資家等と共同して対象企業の事業譲受けや株式取得を行う取引をいいます。

中間期業績概算と景気動向等における影響

中間期業績（連結・個別）において現時点で把握している概算につき、売上高は本業である広告事業が好調に推移し、当初の業績予想値を上回る見通しです。利益（営業利益、経常利益、当期純利益）についても、当初計画を順調に推移していましたが、第2四半期より不動産市況が低迷し一部の債権で回収不能のおそれが生じる等取引先に対する信用リスクが高まりました。この結果、一般債権に対する貸倒引当金を含め中間期で164百万円（第1四半期32百万円、第2四半期133百万円）の貸倒引当金（販売費）を計上することとなり、当初の中間業績予想値に対して利益が減少となりました。

当社は、この状況に鑑み、不動産市況の低迷が当面の間継続すること等を想定し、不動産業界を中心に取引先の与信管理等のリスク管理全般を強化してまいります。この過程で主に単体および連結子会社の株式会社クラシファイドにおける取引の一部を結果的に縮小させる可能性があり、下半期の売上高が当初予想値に対して減少する見込みです。但し、通期の売上高は中間期での予想比増加分が寄与し、当初業績予想値を上回る見込みです。また、通期の利益に関しては、下半期の売上高の減少に伴う影響のほか、中間期で個別債権に対する貸倒引当金が増加したことによる影響で貸倒実績率が上昇する等、利益を押し下げる要因が顕在化しており、当面の間継続することを想定しております。このため、利益が連結・個別ともに当初の業績予想値に対して減少する見込みです。

以上